

「本質」見据え追究

# 仕事は「楽」か「辛」か!?

## キャリアパスで考える

キャリアパス (career path) とは、「自分の経歴にあった職業選択」を指す。絶対的価値観となりがちな「就職」の視点を離れ、職業観を広げ仕事を「人生の充足」にするため、起業家・経営者、アートディレクター、海外勤務という、単なる「就職」を離れた、職業の実態に迫った。また、就職を扱う専門学校に就職とは何か聞いた。

特殊な技能やセンスが重視される職業がある。アートディレクター平出杏さんは、テクニカルディレクター伊藤修二さんと、ウェブサイト制作を得意とするクリエイターユニット「quid Design」として活躍している。大手化粧品ブランドのプロモーションサイトから地元美術館のサイトまで幅広く手がける。



▲「何より対話重視」と平出さん

平出さんが現在の仕事を志したのは、工学部で学んだことや色に触れる機会のある技術職を模索していたことに加え、彫刻家である父の作品をインターネットで紹介したいと思ったことがきっかけだ。当時総合建設会社勤務だったが、並行して夜間のデジタルクリエイター養成学校に通った。制作活動の基軸となるものは実務経験だとい

う。制作会社、企業の制作部や広告代理店、大手ポータル運営会社のウェブデザイナー、ディレクターとして6年間転職を繰り返した。転職先によってキャンペーンや広告、大規模サイトの立ち上げから運用、ユーザビリティなど学べることは大きく異なり、自分の学びたいことが学べる仕事を選び、経験を積んだ。ウェブ制作は顧客から

### 対話重ねて満足を

アートディレクター、ウェブ・グラフィックデザイナー

平出 杏さん

◀前橋市における美術館構想Webサイト  
▼有限会社内山建設Webサイト



ツールへと昇華させる。またそれが必然と信用や実績となり新たな依頼につながる。プレッシャーを課している。「デザインには正解がない。顧客にとっての成果が良し悪しの判断基準」と平出さん。「技術やセンスはその手段に過ぎない」と考えているようだ。

平出さんは、手段としてのグラフィック制作の技術を伸ばすために、コラージュやイラスト作品を仕事以外に自主制作しているが、その土台となっているのは自然の風景やディテール、芸術やデザインといった日頃好きで目になっているものが少なからず影響しているとし、「興味あるものには積極的に触れることが大切だ」と話す。こうして作った作品をインターネットで公開していることが、結果として仕事の強みや相談のしやすさに繋がるようになったという。

何もないとところから顧客との対話によって材料を集め、それを自分の技術やセンスで練り上げて形にするのが「デザインの仕事」だ。

(秋原)

的

材を欲しています」と小沼さん。これらを欠いて資格だけを有していても